

標 題： Olive oil, other dietary fats, and the risk of breast cancer (Italy)
オリーブ油、他の食事油脂、および乳癌のリスク（イタリア）

著 者： C. L. Vecchia, et al. (イタリア ミラノ大学)

掲 載 誌： Cancer Causes and Control 6: 545-550 (1995)

要 旨： オリーブ油および他の食事油脂と乳癌リスクとの関連を解析するのに、イタリアで実施された乳癌の多施設症例 - 対照研究に由来するデータを用いた。症例は組織学的に乳癌と確認されて入院した女性 2,564 人であった。対照は、癌でなく、ホルモンと関係がなく消化器疾患でない急性疾患で同系列の病院に入院した女性 2,588 人であった。1991 から 1994 年の間に有効な食品頻度アンケートを用いて、症例および対照を面接した。データを、人口動態と生殖の乳癌危険因子、エネルギー摂取、および食事脂肪の種類を管理する多重ロジスティック回帰に合わせた。

オリーブ油で、最低の区分と比較して摂取量が高い区分(5分割)のオッズ比(OR)は 1.05, 0.99, 0.93, および 0.87 であった；リニアロジスティック増加と仮定するモデルで、単位(30g)当りの OR は 0.89(95%信頼区間(CI)=0.81 - 0.99、P=0.03)。

考察した他の油脂の間では、特定種子油群（サフラワー、コーン、ピーナツ、大豆）の最高摂取区分は非摂取者と比較して OR は 0.72(CI=0.6 - 0.9)であった。

摂取量の最高群と最低群との OR は、混合または非特定の種子油 0.80、バターで 0.95、マーガリンでは 0.96 であった。

イタリア各地域からの大きなデータセットに基づく研究で、乳癌リスクとオリーブ油および他の植物油の摂取との間に逆関連があるが、バターとマーガリンとは関連がないと示される。

キーワード： 乳 癌、食事油脂、女 性、イタリア、オリーブ油
